

## 平成 18 年 3 月期第 1 四半期決算発表

平成 17 年 7 月 20 日 16:00～17:00

於：東京証券取引所東証ホール

**お断り:**このメモは、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会でお話したことの全てを一字一句書き起こしたものではありません。当社IRグループの判断で、簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。また、最終頁の注意書きもあわせてご覧ください。

### 【CFO 江間より決算概要の説明】

#### <株式分割>

- ・本日の取締役会において株式の分割をする決議をしました。目的は、当社の株主構成は個人の方が極めて少なく、株価形成から考えても個人株主作りを積極的に行っていく方がよいと考えたからです。昨年 10 月に、アメリカでADR(米国預託証券)のレベル1を開設し、現在まで残高も相当数増えてきており、日本の個人の方にも、会社として力を入れて行く必要がある、ということと、東京証券取引所の「株式の投資単位に関するアクション・プログラム」などにより、実質的に 50 万円未満で取引ができるように、という要請を満たしていくために実施します。1対4の分割で、個人の方も参加しやすくなり、当社のビジネスの中で 30%強が消費財なので、株主であると同時に当社製品もご愛用いただけるような方が増えれば幸いと考えています。
- ・基準日は、平成 17 年 9 月 30 日の株主様に対して分割を行いません。効力発生日は 11 月 15 日、配当起算日は 10 月 1 日です。
- ・商法の改正等があり、資本金の変動はなく、62 億 64 百万円は変更ありません。授權株式数は、現在の株式数にこの倍数を掛けたものに定款が変更になります。
- ・当社はストック・オプションをしております、第四回まで行っており、その発行価額は調整されますが、調整後の金額はリリースに書かれています。新株予約権については、権利落ちの 9 月 27 日から効力発生日 11 月 15 日の間は、ストック・オプションの行使が行われますと、一般の株主とストック・オプションの権利者との間に差がでますので、この期間は行使をしないこととし、そのように通知します。

#### <第1四半期の連結業績>

売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに、四半期の業績として過去最高を記録しました。

売上高： 817 億 77 百万円（前年同期比、9.1%増）

営業利益： 250 億 55 百万円（同、18.9%増）

経常利益： 274 億 65 百万円（同、22.8%増）

四半期純利益： 203 億 89 百万円（同、25.7%増）

数年前までは、年間の利益が 200 億円だったのですが、今回は四半期でそのボリュームを達成しているということです。1株あたり四半期純利益は 183 円 02 銭です。

## <資産の状況>

総資産： 3,525 億円

株主資本： 2,868 億円

株主資本比率： 81.3%

・第 1 四半期は、納税の時期と、社員に賞与を支払う時期なので、現預金が 59 億円減りまして、貸方勘定で未払法人税、賞与引当金の減少がありました。

・流動負債のその他で、31 億円減っておりますが、設備投資の未払金がほとんどです。

## <キャッシュフロー>

営業活動によるキャッシュフロー： 177 億円の収入

投資活動によるキャッシュフロー： 125 億円の支出。ほとんどが設備投資の資金です。

財務活動によるキャッシュフロー： 98 億円の支出。100 億円の配当がありました。

当四半期期末現金及び現金同等物 1,069 億円

・税金等調整前利益と減価償却費をあわせて、323 億円のキャッシュ・フローのプラスがある一方、法人税等の支払額として 98 億 83 百万円、売上債権と在庫が若干増加しており、これらを差し引きますと営業活動の収入 177 億円がでできます。

## <連結業績予想>

### 中間期見込み

	当中間期予想 (百万円)	前年同期比 増減率(%)
売上高	163,000	6.2%
営業利益	49,000	11.0%
経常利益	52,500	12.2%
中間純利益	38,000	15.5%
1株あたり中間純利益(円)	341.11 円	42.16 円

### 第 2 四半期見込み

	当第 2 四半期予想 (百万円)	前年同期比 増減率(%)	当第 1 四半期比 増減率(%)
売上高	81,223	3.5%	▲0.7%
営業利益	23,945	3.9%	▲4.4%
経常利益	25,035	2.6%	▲8.8%
当期純利益	17,611	5.6%	▲13.6%
1株あたり四半期純利益(円)	158.09 円	8.31 円	▲24.93 円

・前年の第 2 四半期と比較しますと、全ての項目で約 3%前後の増加ですが、直前の第 1 四半期と比較すると売上高はほぼ横ばい、利益は下回る見込みということです。

・為替の影響は、USドル、タイバーツとも1.1%の円高に推移しました。ユーロは2.1%の円安で、合計で見ると円安の数字がでます。損益計算書で、連結子会社の現地通貨を円に置き換えて読みかえますと、売上高で2億71百万円、営業利益・経常利益・当期純利益でそれぞれ数千万膨らんで見えるということです。事業別に見ますと、増収の9.1%のうち、為替の換算要因が0.4%で、本来の事業活動が8.7%増収となりました。8.7%の内訳は、エレクトロオプティクス(EO)部門で6%、ビジョンケア(VC)部門で2.3%、ヘルスケア(HC)部門で1.1%で、その他クリスタル等で減収のものもありますが、主力事業が売上の増加に寄与しているということです。営業利益については、為替の影響はほとんどありません。事業別には、EOで14.8%、VCで2.2%、HCで1%というのが増益の中身です。

#### <税効果会計>

・実効税率の負担率が24.2%です。前年同期は、27.1%で直前の第1四半期(1-3月期)は12.7%でした。直前の1-3月期には一時的要因が入っています。主なものは、海外連結子会社の税率差異というのが、法定実効税率を大きく下げる要因になっています。

#### <退職給付債務>

・厚生年金基金はすでに解散してますので、基本的に退職給付債務会計は、当社の業績に影響はありません。国内2部門と海外2社で行なったリストラによる退職加算金が3億円弱あったのみです。

#### <セグメント情報>

・EO部門で、昨年の第2四半期に営業利益率が40%を超えたことがありましたが、当四半期はさらにそれを超え、収益増となっています。VCは営業利益率17.9%、ヘルスケアは同24.1%で、全体で30.6%でした。四半期で営業利益が30%を超えたのは初めてです。EOの収益がけん引しました。

・営業利益の前年同期比増減額は、39億74百万円です。その中身はEOが31億円のプラス、VCが5億円プラス、HCで2億円プラスで、増減額についても引き続きEOが全体を引っ張っています。

#### <製品別の売上高伸率>

・LCDマスク:前年同期でも伸びているが、直前期比でも伸びている。

・MD:昨年は倍くらい伸びました。前年比ではまだ高い状態で伸びている。

・光学:前年の数字に比べると下回りますが、直前四半期の数字よりは2割弱上回りました。回復しています。ただし、需要的にはあまり強いものではありません。

・メガネレンズ(日本):昨年の2Qだけが上にポンと出ている影響で、当第2四半期もなだらかな伸びに見えます。

・メガネレンズ(欧州):昨年が悪かった。回復に向かっています。

製品群	当第1四半期 前年同期(1Q)比 伸率(%)	当第2四半期 前年同期(2Q)比 伸率(%) (見込み)	当第1四半期 直前四半期(4Q)比 伸率(%)	当中間期 前年同期比 伸率(%) (見込み)
ブランク	0.4	1.2	15.1	0.8
LSI マスク	4.6	-1.7	-3.3	1.4
LCD マスク	19.7	12.3	9.7	15.9
MD	42.0	20.1	2.8	30.1
光学	-4.5	-7.5	19.4	-6.0
メガネレンズ	8.9	5.0	2.2	6.9
日本	2.5	-4.0	0.6	-0.9
北米	11.8	8.6	3.9	10.1
欧州	12.6	11.2	3.6	11.9
アジア	14.4	12.1	-0.6	13.3

## 【CEO 鈴木より業績概況の説明】

### <半導体製造用ブランク>

- ・LSIのデザイン活動ということ言えば、好調だったのはアジアです。ファウンダリーを含め、DRAM、フラッシュも、一般的に活発で全体をけん引しています。日本は、ハイエンドが元気で、難しいマスクを作っておられるという印象がある一方で、こなれたグレード・中級品が少なかったという印象です。
- ・直前の第4四半期は不振で皆さんにご心配をおかけしましたが、「一過性で、すぐ戻ります」と言っていたとおりになったと思われまます。

### <半導体製造用マスク>

- ・ブランクの国内市場とはほぼ同じような動きをしていて、ハイエンドの動きがかなり活発です。65nmの量産が始まるという話になって、フェイズシフトマスクのさらに高度な製品が出てきました。ストロング・フェイズシフトというもので、いくつか種類があり、少しずつ異なっているようです。液浸を使わずに65nmを描いてしまおう、ということが丁度始まった四半期でした。
- ・結構スムーズに行っているようで、日本の技術はすごいなと思っています。

### <液晶用大型マスク>

- ・大型マスクは、台湾の工場が4Qから稼働し始めて、1Qくらいから稼働が上がり、キャパが増えた分だけ売上が増えました。韓国・台湾のお得意先が新ラインの立上げ、量産移行をしていて、大型TV中心に需要はあるのに、当社のキャパがなかったところに、台湾が増えた分だけ売上が増えました。
- ・本当を言うと売上ももう少し行ったはずだった。最大の量産工場の熊本で地震があったのです。あまり報道されませんでした。3月から毎月小さい地震が続いて、影響を長いこと引っ張ってしまった。もう少しキャパ的にはできたが、売上は少し低迷したかなという印象です。
- ・あくまで個人的な意見ですが、パネルの量産の具合を見ると、結構歩留りが良い状態で動いている。TV等の製品は順調に売れているようですが、キャパが増えてくるのはこれからですから、供給過多で在庫が増えてしまわないか心配しております。

### <HDD 用ガラスディスク>

- ・音楽プレイヤー用の 1.0 インチや 1.8 インチは、少し落ち着きました。昨年はずごい勢いで伸びましたが、今年は同じような勢いは期待できないと思っています。音楽向けは、クオリティにもよりますが、フラッシュが伸びているということでしょうか。
- ・携帯向けは、お得意先各社は大変熱心であり、当社もキャパを用意しますと約束しています。携帯でテレビを見るのは普及すると思いますが、携帯で録画するかというよくわかりません。しかし私の予測はあてにならないと社内では評判になっています。
- ・2.5 インチの用途が徐々に増えています。PC 向けも増えているし、カーナビも増えてきています。ノート以外の用途が徐々に広がっており、需要は非常に旺盛で伸びています。

### <光学レンズ>

- ・他の製品群に比べるとやや元気がないです。
- ・携帯向けは、沢山のプログラムをやると膨大な数量になるので、プログラムを絞ってやってみました。結果として需要が伸びず、キャパが余ってしまうので、少しプログラム増やしますという話を以前したと思います。各社で評価を受けたら好評で、それらを加えると今度は足りなくなっていました。
- ・携帯の小さいレンズは忙しく、生産は一杯です。単価は安いですが量があります。2 メガや 3 メガになると、それなりのレンズ系を使用しないといけないようで、2 メガを超えてくるところではやはりガラスレンズを 2 枚とか 3 枚は使う必要があるようです。
- ・一方、デジカメですが、当社しか作れない、複雑な形状のモールドレンズなどの領域では結構元気で、供給できないくらいの量の注文が来ています。それ以外の研磨レンズやガラス材料という領域では元気がない。シェアも単価も落ちています。市場での単価がすごく落ちている。デジカメが良いときに、研磨レンズのキャパが増えたんでしょうね。それが余ってきているので、値段が下がっているのでしょう。デジカメ業界は数量ベースではそこそこ行っているようですが、部材は単価が下がってきているので、数量が戻ってきているのに売上が伸びていかないという状況に全般的になっています。
- ・当社も、そうした状況を予想して、他の製品、例えばアプロ用のレンズに目を向けましたが、思ったような成果は出ませんでした。
- ・光学は、次の四半期も、あまり良くなる感じではないです。

### <ビジョンケアーメガネレンズ>

- ・昨年のヨーロッパの数字が非常に悪かったので、それに比べれば良く見えます。日本では安売り店が一巡して価格が安定した。売上の的にも安定してきて、前向きにとらえられるところに来ています。
- ・ただ、「販促にお金を使いますので営業利益はそれほど上がらない」と言っていたのに、1Q はお金を使いきれなかったので、営業利益も 20%まで行ってしまうかなと思っていた割には、結果として 17.9%でガックリしています。本当は、売上の的にも利益的にも、もう少しやれる環境にあるのではないかと考えています。

## 【質疑応答】

**Q:** 下期のEOの-marginは、LCDマスクが厳しいとか、携帯レンズが厳しい等を考慮すると、上期よりも落ちると考えた方がよいか？

A: まだ工場が立ち上ってくるので、固定費も膨らんでくるでしょう。下期を上期並みの営業利益率にとするのは環境的に難しいと思います。ただ、前年が悪かったので、前年対比はいけるかと思えます。

**Q:** MDは、売上もかなり伸びていて、利益率の改善度合いも大きかったと思う。1インチをサブとメディアに分けて、1インチはメディアのビジネスがあって、利益もそこで稼げたと思うが、今後その辺が少なくなってくるとすると、サブが増える分、利益率の改善は鈍化するのか？

A: そうでもないです。確かに、1インチの方が利益率が高いですよ、と言っていた時期はあると思います。1年くらい前だと思います。あれから継続的に価格を下げ続けていますので、メディアで1インチの収益率が2.5インチに比べて極端に高いということはないです。そういう意味では1インチが少なくなったからといって、marginが下がるということではないです。

**Q:** 設備投資を当初検収ベースで400億円と言っていたのを、450~460億円に増やすと記者会見で言っていたと思うが、予算外でいくつか決済した案件を具体的に教えてほしい。

A: 一番大きなものはMD、LCDマスク。設備投資を予算外でサインしました。海外です。LCDマスク韓国工場にエキストラの装置が入り、MDのベトナムの生産数量が予定より増えるということです。

**Q:** 償却費も当初の計画から変更があれば教えてほしい。

A: 償却費は約275億円くらい。検収が遅くなるので、フルに効かないです。

**Q:** ホトニクスや他の部門でコメントがあれば、クリスタルでやってきたこととかあれば教えてほしい。

A: 他のセグメントで力を入れているのはIOL(眼内レンズ)です。新しいイエローレンズの認可がおりたので、国内も含めヨーロッパで頑張ろうと思っている。まだ2桁で順調に成長していますが、成長率は低下しているので、新製品を投入して成長率を高めるように努力しています。

・クリスタルは引き続き規模を縮小しています。

・ホトニクスは、レーザーに関連する装置関連をやっている事業ですが、可もなく不可もなく、どちらにしても大きな影響はない。足元でもあまり大きな変化はないです。

**Q:** 2Qの予算がある程度ラフに作られているということだが、見込みを作られた上での市場前提、特に世界の半導体市場、台湾のファウンドリーの設備投資に関して、イメージで教えてほしい。

A: 下期に半導体・ファウンドリーがどうなるかという、台湾のファウンドリーに限ると、かなりアメリカのファブレスに依存しているようです。ファブレスの雰囲気を見ていると結構元気そうです。下期の年度末までビジビリティがあるかはわかりませんが、向こう3~4ヶ月のスパンで考えると結構元気そう。今の状況よりも良くなるという考え方で、設備も計画より前倒しで進めるだろうという印象で見えています。

**Q: 研究開発の費用は、期初の計画をそれ程変えていないのかなという印象を受けるが、今後、研究開発の水準は、新しいことを始める等にあたって、ウェートが増えてくるとか長期的にどのくらいまで研究開発費用を対売上比で伸ばしていくつもりかを教えてほしい。**

A: 研究開発比率はほとんど気にしていません。研究開発費という数字を目標値に置くということはない。新しい領域で、5年～10年かけて取り組みたいテーマは複数で構想に入っていますが、確率は低い。10～20 やって1つ当たるかどうかというものなので、もう少し詰めていかないといけない。人を増やして世界を回るような活動をもう1度力を入れようかと思っています。どちらかという、自分のR&Dでやるよりも人がやっているところに付いてやる方が好きなので。資金はないが良い技術を持っているというようなベンチャーが増えてきているのでそういう領域をもう一度見直していきたいと思っています。シリコン・バレーに傾斜しすぎたので、ドイツやイスラエル等、地域的に領域を広げて新しい技術を探って行こうかと思っています。

**Q: 設備投資と減価償却について、設備投資は上方修正して、減価償却が少し減るかと思いますが、検収が遅れるというのは、何が要因なのか？装置を入れたのにそれが届かないのか、従来はもっと早く装置を入れる予定だったのに、需要が伸びなさそうなので、装置を遅らせようと思ったら、思った以上に需要があって、検収が遅れるということなのか？**

A: 設備投資はプログラムがあり、今年に入っていないものがあつたが今年やりましょうということで設定しました。ただし、会計期間で見ると期の後半くらいになるので、減価償却の負担で見ると遅いという意味です。どの時期に全体の設備投資をするかによって、償却費は影響されます。逆に1～3月期にボトムになりましたので、少し引っ張り気味にやるかという案件も含まれており、それらの入り組みです。追加で意思決定したのは、将来のものを前倒しでやるという決定であり、建物を建てるということではなく、中に入る設備の増強です。

**Q: ビジョンケアのところで、今期販促あまりしていないのに、マージンが上がっていない理由は？今後販促費を投入するとマージンはもっと下がるというように考えた方が良いのか？**

A: 理由を良く計りきれいていません。本来はこのくらいの資源を、このくらい使っても18%くらい行くだろうという計画があつたが、うまく使いきれなかった割には、思ったほど利益率は上がらなかったということです。プロダクト・ミックスのせいかもしれないし、為替や在庫の問題もあるので、これから中身を調べる予定です。

**Q: 2Qの製品別売上高伸び率を教えてください。液晶でキャパを増やしている中で、売上の的にも利益も伸びないのではないかと心配。**

A: ブランク、LSIマスク、LCDマスク、MDともにフラットです。光学は1%のマイナス。メガネレンズは全体で1.2%のプラスですから、地域ごとに見てもだいたいフラットです。

**Q:1Q と2Q の見込みについて、通貨別の営業利益の影響をドルとユーロで、1 円でどれだけの影響があったか、ある見込みかを教えてください。**

A: USドルは、約 1 億円弱売上が減少します。ユーロでは 2 億円くらいプラスになります。アジアの通貨は複数混ざっているので、エリアで約 2 億円くらいプラスになるという感じです。営業利益は、ユーロで 3 千万円くらいのプラスで、他はほとんど影響ないです。1ドル 105 円というレートは、予算のレートを使っているのですが、子会社の財務諸表の為替の換算には実質的にあまり影響がないと思っています。いただいた方がよいでしょう。

**Q:液晶の売上は、地震の影響で、キャパの何%くらい落としたのか？**

A: 5%くらいでしょうか。プロダクト・ミックスが難しくなってきたということがあって、一つの製品を作るのに、昔は 1 日で出来たのが、今は大きいTV用を描こうとすると 3~4 日かかる。それが出てくるときはまとまって出てくるので、そうすると納期的に対応できなくなり、他社に流れたりします。逆にそれが無い時は、キャパが空いてみたり、昔みたいにまんべんなく埋まらない環境になりつつあります。そういう意味では稼働率 100%というよりも、少し稼働率に余裕があるような状態を作らないとお客様に迷惑がかかります。

以上

**本資料中には将来の当社の業績・当社を取り巻く業界の環境に対する予想の部分ががあります。これは当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりませんが、リスクや不確実性を含んでおり、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。従いまして、これらの予想の部分に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績・業界環境は、様々な要素により、これら予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果に対する責任は負いかねますのでご了承ください。**